

2023（令和5）年度

事業報告書

学校法人 海星女子学院

1 法人の概要

(1) 建学の精神

海星女子学院は、「真理と愛に生きる」を建学の精神とし、キリスト教の理念に基づいて設立されました。設立母体であるマリアの宣教者フランシスコ修道会はローマに本部を置く世界宣教を使命としているカトリック女子修道会です。

戦後の荒廃した神戸に呼ばれた当時の修道会管区長 Sr マリー・デュ・ムスチェ・ド・カンシーは、新しい時代を生きる女子教育に大きな夢を描き、「神様のことを教えたい。正しい人間として成長して欲しい。良い教育を与えたい。」と望み、1951年（昭和26年）青谷に学校法人海星女子学院を設立しました。以後、幼稚園から大学までの総合学園として、一貫した創立精神のもと、キリスト教的価値観に基づく全人教育の場の実現を目指しています。

(2) 学校法人の沿革

1951（昭和26）年

学校法人海星女子学院設立認可
海星女子学院小学校・海星女子中学校・海星女子高等学校設置

1952（昭和27）年

学校法人海星女子学院附属マリア幼稚園設置

1953（昭和28）年

熊本聖母愛児幼稚園設置

1954（昭和29）年

ステラマリス・インターナショナル・スクール設置

1955（昭和30）年

海星女子学院短期大学英語科設置
海星女子中学校・海星女子高等学校を海星女子学院中学校・海星女子学院高等学校に名称変更

1962（昭和37）年

海星女子学院短期大学家政科設置

1964（昭和39）年

海星女子学院短期大学を神戸海星女子学院短期大学に名称変更
福岡海星女子学院中学校・高等学校設置
（福岡）マリア幼稚園を法人統合
海星女子学院小学校・中学校・高等学校を神戸海星女子学院小学校・中学校・高等学校に名称変更

1965（昭和40）年

神戸海星女子学院大学文学部英文学科、仏文学科設置

1966（昭和41）年

神戸海星女子学院短期大学英語科廃止

学校法人海星女子学院附属マリア幼稚園を神戸海星女子学院マリア幼稚園に名称変更

1968（昭和43）年

福岡海星女子学院附属小学校設置

1980（昭和55）年

ステラマリス・インターナショナル・スクール廃止

1984（昭和59）年

福岡海星女子学院幼稚園・小学校・中学校・高等学校を法人分離

1998（平成10）年

神戸海星女子学院大学文学部英文学科、仏文学科を英語英米文学科、フランス語フランス文学科に名称変更

熊本聖母愛児幼稚園を法人分離

2000（平成12）年

神戸海星女子学院短期大学廃止

2004（平成16）年

神戸海星女子学院大学文学部英語英米文学科、フランス語フランス文学科を国際英語メディア学科、心理こども学科に改組。

2008（平成20）年

神戸海星女子学院大学文学部国際英語メディア学科、心理こども学科を現代人間学部英語キャリア学科、観光ホスピタリティ学科、心理こども学科に改編

2012（平成24）年

神戸海星女子学院大学現代人間学部観光ホスピタリティ学科を募集停止

2014（平成26）年

神戸海星女子学院大学現代人間学部英語キャリア学科を英語観光学科に名称変更

2024（令和6）年

神戸海星女子学院大学を募集停止

(3) 設置する学校・学部・学科等

設置する学校	開校年月	学部・学科等
神戸海星女子学院大学	昭和 40 年 1 月	現代人間学部 (英語観光学科) (心理こども学科)
神戸海星女子学院高等学校	昭和 26 年 3 月	全日制 (普通科)
神戸海星女子学院中学校	昭和 26 年 3 月	—
神戸海星女子学院小学校	昭和 26 年 3 月	—
神戸海星女子学院マリア幼稚園	昭和 27 年 1 月	—

(4) 学校・学部・学科等の学生数の状況

(2023年5月1日現在) (単位:人)

学校名	入学定員数	収容定員数	現員数
神戸海星女子学院大学	95	380	224
神戸海星女子学院高等学校	150	450	395
神戸海星女子学院中学校	150	450	440
神戸海星女子学院小学校	50	300	304
神戸海星女子学院マリア幼稚園	100	300	278

(5) 教職員の概要

(2023年5月1日現在) (単位:人)

区分		本部	大学	高等学校	中学校	小学校	幼稚園	計
教 員	本務	0	20	22	26	21	18	104
	兼務	0	48	14	18	6	13	109
職 員	本務	5	14	3	2	1	3	29
	兼務	1	6	1	3	2	2	16

(6) 役員に関する事項

① 役員名簿

定員数 理事 8名、監事 2名

(2023年5月1日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	梶田 行雄	常 勤	
理 事	石原 敬子	常 勤	大学長
理 事	糸井 孝幸	常 勤	中学校・高等学校長
理 事	鈴木 良孝	常 勤	小学校長
理 事	元山 一則	常 勤	幼稚園長
理 事	芝山 豊	常 勤	カトリックセンター長
理 事	村田 博	非常勤	
理 事	井上 幸一	常 勤	法人事務局長
監 事	荒井 俊朗	非常勤	
監 事	西村 繁秀	非常勤	

【参考】(2024年5月1日現在)

区分	氏名	常勤・非常勤の別	摘要
理事長	梶田 行雄	常 勤	
理 事	石原 敬子	常 勤	大学長
理 事	野手 数弘	常 勤	中学校・高等学校長
理 事	鈴木 良孝	常 勤	小学校長
理 事	元山 一則	常 勤	幼稚園長
理 事	芝山 豊	常 勤	カトリックセンター長
理 事	村田 博	非常勤	
理 事	井上 幸一	常 勤	法人事務局長
監 事	荒井 俊朗	非常勤	
監 事	西村 繁秀	非常勤	

② 責任限定契約の状況

私立学校法に従い、令和2年4月1日より責任限定契約を締結した。

・対象役員の氏名

非業務執行理事（村田博）、監事（荒井俊朗、西村繁秀）

・契約内容の概要

非業務執行理事及び監事はその職務を行うに当たり善意でかつ重大な過失がないときは、金50万円と、役員報酬の2年分との、いずれか高い額を責任限度額とする。

③ 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

私立学校法に従い、理事会決議により令和3年4月1日から役員賠償責任保険に加入した。

・保険者

東京海上日動火災保険株式会社

・被保険者

記名法人 学校法人海星女子学院

個人被保険者 理事、監事、評議員

・補償内容

役員（個人被保険者）に関する補償 法律上の損害賠償金、争訟費用等

記名法人に関する補償 社内調査費用、第三者委員会設置・活動費用

・支払い対象とならない主な場合

法律違反に起因する対象事由等

・保険期間中総支払限度額

3億円

(7) 評議員の概要

定員数 17名

(2023年5月1日現在)

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
井上 幸一	法人事務局長	糸井 孝幸	中学校・高等学校校長
尾崎 秀夫	大学教授	鈴木 良孝	小学校長
下田 学	大学事務長	元山 一則	幼稚園長
野手 数弘	中・高教頭	熊野 公子	
芝山 豊	カリックセンター長	山田喜美子	
石倉 哲也	小学校教頭	森田 和子	
若林 洋子	小中高 事務長	村田 博	
西岡 弘就	中・高教諭	梶田 行雄	
石原 敬子	大学長		

【参考】(2024年5月1日現在)

氏名	主な現職等	氏名	主な現職等
井上 幸一	法人事務局長	野手 数弘	中学校・高等学校校長
尾崎 秀夫	大学教授	鈴木 良孝	小学校長
下田 学	大学事務長	元山 一則	幼稚園長
井上ふき子	中・高教頭	熊野 公子	
市川 憲子	中・高教頭	山田喜美子	
芝山 豊	カリキュレーター長	森田 和子	
石倉 哲也	小学校教頭	村田 博	
若林 洋子	小中高 事務長	梶田 行雄	
石原 敬子	大学長		

2 事業の概要

(1) 神戸海星女子学院大学

1. 広報活動

ホームページやSNSを通じてさまざまな学内活動の発信を継続した。

2. 各学科の教育活動

① 英語観光学科

学生が主体的に関わるさまざまなプログラムを実施した。例えば、1年次対象の「ホスピタリティ研修」(8月・帝国ホテル大阪)、1年から4年次の希望学生による「旅行博」(10月・大阪)の参加、また観光領域ゼミにおいては、地域の課題について調査するフィールドワークを兵庫県丹波篠山市と愛媛県大洲市で実施した。1年間の学びについては、KAISEI English and Tourism Festivalにおいて発表を行った。

また2023年度から国内インターンシップを2年次配当とし、低年次からのキャリア教育を推進した。

② 心理こども学科

学科や学年の枠を超えた交流の機会を積極的に設けた。また各教員が、教員としてのロールモデルを学生に示せるよう工夫を重ねた。その成果の一つとして、「海星子育てひろば」では、保育分野以外の教員も携わり、保護者または親子に対して音楽や製作などの時間を共有し、幅広い活動を提供することができた。また、「海星☆心理こども学科フェスティバル」に名称を変更した年度末の行事では、音楽だけでなく学科の学びの研究発表を行った。フェスティバルには学科全体の81%の学生が出席し、計画から実行、反省会まで24名の学生スタッフが成し遂げた。初めて学科専任教員全員で演奏を披露し、学生と協働でフェスティバルを盛り上げた。

また閉学に向けてのカリキュラムの整備を行った。

③ 全学的な取組み

前年度に策定し試用した「卒業研究」科目の学内共通ルーブリックを活用した。また「演習」、「海星学」などの授業においては2学科共同で教育・研究に取り組んだ。

④ 教職課程

学校法人国際学園星槎大学との協定により、2023年度より教職課程を履修する学生のうち希望者2名が特別支援教育免許取得に向けて履修を継続している。

教員採用試験対策講座及び幼保就職対策講座、就職体験発表会を開催し、筆記試験・実

技試験・面接試験に向けて集団及び個別指導を行った。

3. キャリア支援

学年ごとに段階的な支援を行い、4年次生の進路決定につなげた。2023年度大学全体の就職率は100%（前年度96.8%）であった。

また、秘書技能検定対策講座等、学年を問わず参加できる複数の資格取得支援講座（学外提携講座を含む）をオンラインで開講した他、教育懇談会（6月）に合わせて学生・保護者の個別相談会を実施した。

4. 生涯教育、地域交流・貢献等

① 生涯学習講座

「英会話」、「フランス語会話」、「関西文化に育まれた文学」、「フラを通して、ハワイの歴史と文化を学ぶ」の他に、新たに「生涯発達心理学」、「発達障がいについて学ぼう」、「歴史の中の音楽」を加えて9講座を開講し、計114名の受講者が参加した。

② 公開講座

本学専任講師の中園佐恵子先生が講師を務め、「記憶の不思議」と題して11月に実施した。来場者数は69名であった。

③ 海星子育てひろば

「大学と連携したまちづくりチャレンジ助成金」の交付を受け、心理こども学科の教員及び「地域子育て支援」を受講する学生による「海星子育てひろば」を計7回開催した。地域の親子11組が参加した。

④ 「キッズイングリッシュ」関連の地域交流・貢献活動

「キッズイングリッシュ」の担当教員が協定校の神戸市立美野丘小学校で英語の授業を行った。また、「Kids Englishクラブ」の学生が神戸市灘区住之江公民館での「子供英語教室」（全10回）及び南須磨公民館での「サマースクール」（1日程）の講座を担当した。

⑤ 地域における教育・文化・福祉等の活動に関する事項

神戸市との連携講座である「こうべ生涯学習カレッジ」を担当し講師を派遣した他、兵庫県・神戸市・明石市・宝塚市等の行政（20件）や教育委員会（18件）、教育機関（2件）などからの依頼を受け、専門的知識を広く社会に還元し、地域に貢献した。

5. グローバル人材育成に向けた取組み

① 語学留学・交換留学

6カ国7大学への短期・中期・長期の語学留学制度を整えた。2023年春から短期留学も復活し、中期・長期留学と合わせて10名（英語観光学科7名、心理こども学科3名）の学生が参加した。

② 海外ツーリズム研修

海外ツーリズム研修を4年ぶりに実施し、2～4年次の11名が参加した。参加した学生全員が、春季休業中に事前研修及びベトナム（ホーチミン・ハノイ）での4泊6日の研修旅行に参加、全員が修了試験に合格し、総合旅程管理者資格を取得した。研修旅行ではホテル視察に加え、JTBホーチミン支店の訪問、日本政府観光局ハノイ事務所の訪問を実施した。

③ 留学支援金

留学支援金制度により、申請のあった20名（英語観光学科18名、心理こども学科2名）の学生に対して支援金の支給を行った。なお、20名の中には、2022年度秋学期から2023年度春学期にかけての留学生2名を含む。

6. キリスト教関連

① キリスト教研修

1年次は学内でDVD視聴・講演・オリエンテーリング、2年次はカトリック夙川教会で聖母マリアについての講演と音楽鑑賞、3年次は布引ハーブ園で神父によるアッシジのフランシスコについての講演、4年次はDVD視聴と大塚国際美術館の絵画を通じてキリスト教を振り返る機会をもった。

② 海星協力金

例年通り、学期ごとに一人500円ずつクラスで集め、年度末に送金した。送金先は「日本キリスト教海外医療協力会」、「日本国際ボランティアセンター」等である。

③ サンタガールズの活動

不要になった教科書やその他書籍を回収し、学内で中古販売、その収益を「サンタ募金」として灘区内の児童養護施設の子ども達に届けた。

④ ミッション・シネマの会

昼休みの時間を利用して、キリスト教の影響を受けた人物や出来事について学ぶ機会を設けた。春学期は映画『神は死んだのか』、秋学期は『村岡花子』についてのDVDを鑑賞した。

⑤ キリスト教国内研修旅行準備

2024年度の実施に向け、長崎・鹿児島のカトリック大学との打ち合わせ、現地下見を行った。

7. 学生支援

① 大学祭支援

4学年がそろそろ最後の年度のため特別な思いで臨んだ大学祭運営委員会の学生と学生委員会の教職員を中心に、学生と全教職員との協働により成功裏に終えることができた。当日の来場者数は1,139名（うち卒業生約150名）であった。

② 学生アンケート

毎年2回学生の意識調査を行うが、2023年度春学期は下校後の過ごし方を中心とした学生生活全般について、秋学期は学生の金銭に対する意識や経済的困窮度について調査した。自宅生27%、下宿生50%が経済的不安を感じていると回答した。その結果を受け、下宿生及び特に困窮していると判断した学生に対し、生活必需品や食料を配布する機会を設けた。

③ 合理的配慮が必要な学生の支援

学生サポート委員会・教務部・学生部・学修支援室 Stella・学生相談室 Maris・保健室・専門相談員（精神保健福祉士）・担任が連携をし、チームで支援が必要な学生や保護者のサポートをする体制を整えることができた。

8. 自己点検・評価

学科・委員会ごとに年度の達成目標を設定し、1年間をかけてPDCAの点検を行い、報告書にまとめた。

9. 教員の研究活動

『神戸海星女子学院大学 研究紀要』第62号を2024年2月に発行した。

(2) 神戸海星女子学院中学校・高等学校

1. 中学校生徒募集と広報活動について

① 中学校生徒募集

出願者数はA日程 157名、B日程 135名、受験者数はA日程 146名、B日程 127名といずれも昨年度より増加した。出願者数は昨年度と比べてA日程で17名増、B日程21名増、受験者数はA日程16名増、B日程18名増となった。追試験については昨年度に引き続き今年度も実施しなかった。

② 大学入試結果

2023年度の国公立大学合格者数は61名（現役42名）で、現役合格者数は昨年より4名減少したが、総数としては昨年の57名より4名増加した。旧帝国大学及びその他難関大学については、京都大、大阪大、北海道大、九州大、神戸大で計27名（現役18名）、医学部医学科に関しては、国公立・現浪合わせて25名（延べ人数）、その中には神戸大学医学部医学科1名が含まれる。

③ 広報活動

新型コロナウイルス感染症5類移行に伴い、教員による塾訪問を再開した。また塾の各教室が主催する保護者対象の説明会では時には生徒や卒業生と一緒に参加した。教員からのスライドを用いた説明だけでなく、生徒や卒業生の生の声を届けることで、より海星の魅力を伝えることができた。

校外の相談会、私学連合会主催、業者主催の合同説明会はほぼ従来通り実施され、本校もできるだけ積極的に参加した。校内では学院祭が4年ぶりに一般公開の形で開催され、多くの受験希望者に見学の機会を提供することができた。オープンスクールに関しても従来の形で行い、在校生による校内案内や体験授業、部活体験、ポスターセッションなど、生徒と直接触れ合いながら学校生活を体験する機会を増やした。体育祭も事前予約を受け付け受験希望者に開放した。秋には弦楽アンサンブル部によるオータムコンサートと2回の学校説明会、5回の学校見学会をすべて予約制で行った。学校に足を運んでいただく機会をできるだけ増やすことで、生徒たちが実際に活動する姿を見て本校の雰囲気を感じていただくことができた。

外部メディアを利用した広報は、例年どおり受験情報雑誌等への広告掲載を中心に実施した。昨今、広報・宣伝の媒体がネットにシフトしている傾向に鑑み、新聞広告への掲載を減らし、読売オンラインやみんなの中学情報口コミサイト等、ネット媒体を活用した広報活動に注力した。また、公式Instagramを開設し、生徒たちが生き生きと活動している姿を日々発信している。「真理と愛に生きる」という学院の理念を具体化するために、今年度は新たに「学び続ける力を養う6年間」を掲げ、卒業後も社会で活躍できる生徒を育てる学校として広報活動を行っている。

2. 学校納付金等について

授業料に関しては、中1から高3まで66万円である。教材費預かり金に関しては、2023年度卒業生については多少の不足金が生じたが、その不足分は学校負担とした。積立金に関しては、138,164円の余剰金が発生したため、保護者に事前通知の上返金した。

3. 教育活動について

① 教育課程

「カトリック学校としての本校の教育を継続して行う」ことと、「生徒の希望する進路の実現」を2つの柱として教育課程を編成している。中学の教科学習においては、基礎・基本の定着を図るとともに、中3からは高等学校の学習内容も取り入れた発展的内容を含む教育課程を編成し実施した。中3の英会話とフランス語の選択による少人数の授業も引き続き開設した。

② 数学、英語での習熟度別授業・少人数授業の実施

中2のネイティブ教員による英会話の授業を継続実施した。1クラスを均等3分割、生徒11～12名に対して1人のネイティブ教員という少人数授業であり、外国語学習にとって理想的な環境である。中3数学においては習熟度に応じた3クラス編成（標準2クラス・発展1クラス）、中3英語は少人数授業の更なる充実を図るべく、均等3分割編成を継続した。

高1と高2の英語については、標準・発展の習熟度別2クラス編成、高2数学に関しては、理系と文系に分けた上で、それぞれ標準・発展に2分割し、個人の学力に見合ったより効果的な授業を実施した。

③ 成績不振者対策

中学生に関しては、定期考査ごとに成績不振者に対して英語と数学の補習を行い、低学力生徒の危機意識を高めると共に、基礎学力の定着を図った。これとは別に、中2・中3の英語と数学に関して、更なる基礎力の向上と全体的な底上げを期して、定期考査の成績が一定の基準に達しなかった生徒（下位約20名）を対象に「特別指名補習」を放課後に週2回程度実施した。

④ 放課後学習サポートシステム

「スクールTOMAS」と提携して、低～中位層を対象（希望者・有料）に自学自習のサポートシステムを2022年度2学期より利用している。対象学年は中1～高2、教科は英語・数学・国語・理科・社会。形態としては「質問型個別指導」を基本に、オプションとして、「カリキュラム型個別指導」、「AI型個別指導 atama+」、「オンライン英会話（Native Camp）」が用意されている。

⑤ 特別活動、宿泊行事

特別活動として、文化的・体育的・宗教的学校行事、学級活動、生徒会活動、部活動、奉仕的活動を行い、心身の健全な発達を図った。

中1は、6月に「イングランドの丘」(南あわじ市)への遠足を予定していたが、警報発令のため中止となった。10月には(財)神戸市民福祉振興協会「しあわせの村」での1日福祉体験学習を2クラスずつ2回に分けて行った。中2は、2泊3日の体験合宿を6月に「休暇村蒜山高原」で実施した。また、11月には灘さくら支援学校を訪問し、生徒と交流を図った。

中3の異文化理解合宿に関しては、「グランドニッコー」(淡路市)にて、協働型体験プログラム「グローバルビレッジ」(LbE Japan 主催)を実施した。SDGsの学習を起点に、様々な文化背景を持つ留学生との交流を通して、国際的視野を培養し、多様な価値観・異文化への理解を深めた。また、コロナ禍でしばらく中断していた中3の企業訪問を再開、11月に4社(竹中工務店・六甲バター・シスメックス・日本銀行)を訪問した。その後2月に事後学習として、振り返りのプレゼンテーションを各社の担当者を本校に招いて実施した。

高1では3学期に大塚国際美術館見学を行い、キリスト教文化を体感させることができた。高2では2学期に6泊8日のフランス修学旅行を実施した。高3では5月に「ユニットピア篠山」にて1泊2日の静修合宿を実施した。

中1～高2の各学年の静修は従来どおり3学期に校内で行った。

⑥ 体育祭

9月に従来どおりの形で実施した。

⑦ 高II修学旅行

2019年以来でフランス修学旅行を再開し、羽田での前泊を含めて6泊8日でパリ、リジュール、オンフルール、トゥールを訪問した。

⑧ 海外研修・国内英語研修

「オーストラリア交換プログラム」・「イギリス語学研修」は中止した。海外研修に代わるものとして、8月に「グローバルスタディーズ」(ISA主催)を中3・高1の希望者対象に5日間本校で実施した。

⑨ ICT教育

Google社の『Google Workspace』を使用した各授業での教材提示及び情報提供は浸透・定着し、学院祭ではMeet機能によるリアルタイムでの講堂演目配信など、その使用領域は年々広がっている。生徒に貸与(中学生は自費購入)しているChromebookの使用頻度もさらに高まり、自宅のみならず学校においても様々な場面で積極的に活用している。また、教員相互での利用率も一層向上し、朝終礼をはじめ、校務や職員会議等での諸連絡に大いに役立っている。

4. 学校評価について

(自己評価)

年度末に教科指導、校務分掌、担任業務について、教員による個人アンケート形式で自己評価を行い、その結果を集計した(資料1)。評価項目は昨年と同じである。各項目の評価結果には若干の変動はあるが、全体として顕著な変化は見られなかった。

(資料1) 2023年度 学校評価

I 評価項目と評価の方法

(1) 評価項目の設定

「教科指導」、「校務分掌」、「担任業務」の3分野を学校運営における中核的分野ととらえ、それぞれについて評価項目を設定した。

(2) 評価の方法

評価は5段階で行い、達成度の最も高い評価を5、最も低い評価を1とする方法で自己評価を行い、項目ごとにその平均値を求めた。

II 評価結果

評価項目	評価
A教科指導	
①総合的に年度当初の目標が達成されているか	3.9
②生徒の学力、意欲、進路志望に照らして適切な学習目標が設定されているか	4.0
③設定した学習内容の水準や進度が保たれているか	3.9
④目標とした内容が定着しているか	3.7
⑤同一教科・科目の前後する学年における学習内容や担当者との連携がとれているか	3.9
B校務分掌	
①担当業務が適切に処理されているか	3.7
②関係者・学年・分掌との連絡・連携が円滑に行われているか	3.6
C担任業務	
①生徒とのコミュニケーションが取れているか	4.0
②保護者との連携がとれているか	4.0
③学年内の連携がとれているか	4.2
④教科担任との連絡がとれているか	3.8

(3) 神戸海星女子学院小学校

1. 小学校広報活動と児童募集について

受験生が複数名いる幼児教室と神戸海星マリア幼稚園で2024年入試に向けての説明会・講演会を複数回行った。また、入試後の9・10月には13の幼児教室を回り、入試報告を行い、同時に1月の転入学募集についての協力依頼をした。

12月に、第11回の「兵庫県私立小学校フェア」が、兵庫県の私学11校が集まり東急REIホテルで行われた。海星の受験を考えている保護者を対象に、本校の特色や少人数2クラス制の良さなどの説明を行った。年少、年少未満の方が多かったこともあり、これから受験する方に説明する良い機会になった。

2024年2月に「兵庫県私立小学校 個別進学相談会」が行われた。参加者は少なかったが、本校の複数の教員が海星小学校について話す良い機会となった。

受験希望者に対して、4月に授業体験会を実施し、学校での説明会を5月と6月と10月の3回実施した。第1回目の5月は、入学希望の保護者を対象に説明会を行い、96組の方が参加された。第2回目の6月も、入学希望の保護者を対象に授業公開と児童による学校説明を行い、好評を得た。10月の説明会では年中以下の保護者を対象に、授業公開と入試報告、6年生による学校紹介を行った。また、1月末には図工展を2部制で公開し、児童の作品を鑑賞してもらった。今年度は、保護者にさらに海星小学校の児童の姿を見てもらうため、2月の末に2部制で公開授業と学校説明を行った。

2023年度は、公開授業や学校説明会のチラシを1,000枚、業者に依頼して作成し、各幼児教室やマリア幼稚園に送り、入学希望の方の手元に残るよう配布を依頼した。

その他の広報活動としては、10月の説明会参加者や図工展登録者、幼児教室に、クリスマスカードや本校の機関紙「かいせい」を郵送し、本校の学校生活の様子を毎月1回は伝えるように努めた。

2024年度入試は、50名の募集に対し63名の志願者があり、57名の合格者を出し、57名が手続きをした。1月には転入学試験を行い、新3年1名、新4年3名を合格とした。2024年度の児童数は、1年生55名、2年生48名、3年生54名、4年生55名、5年生52名、6年生49名、計313名となった。2024年度も、学則定員50名×6学年=300名を確保できた。

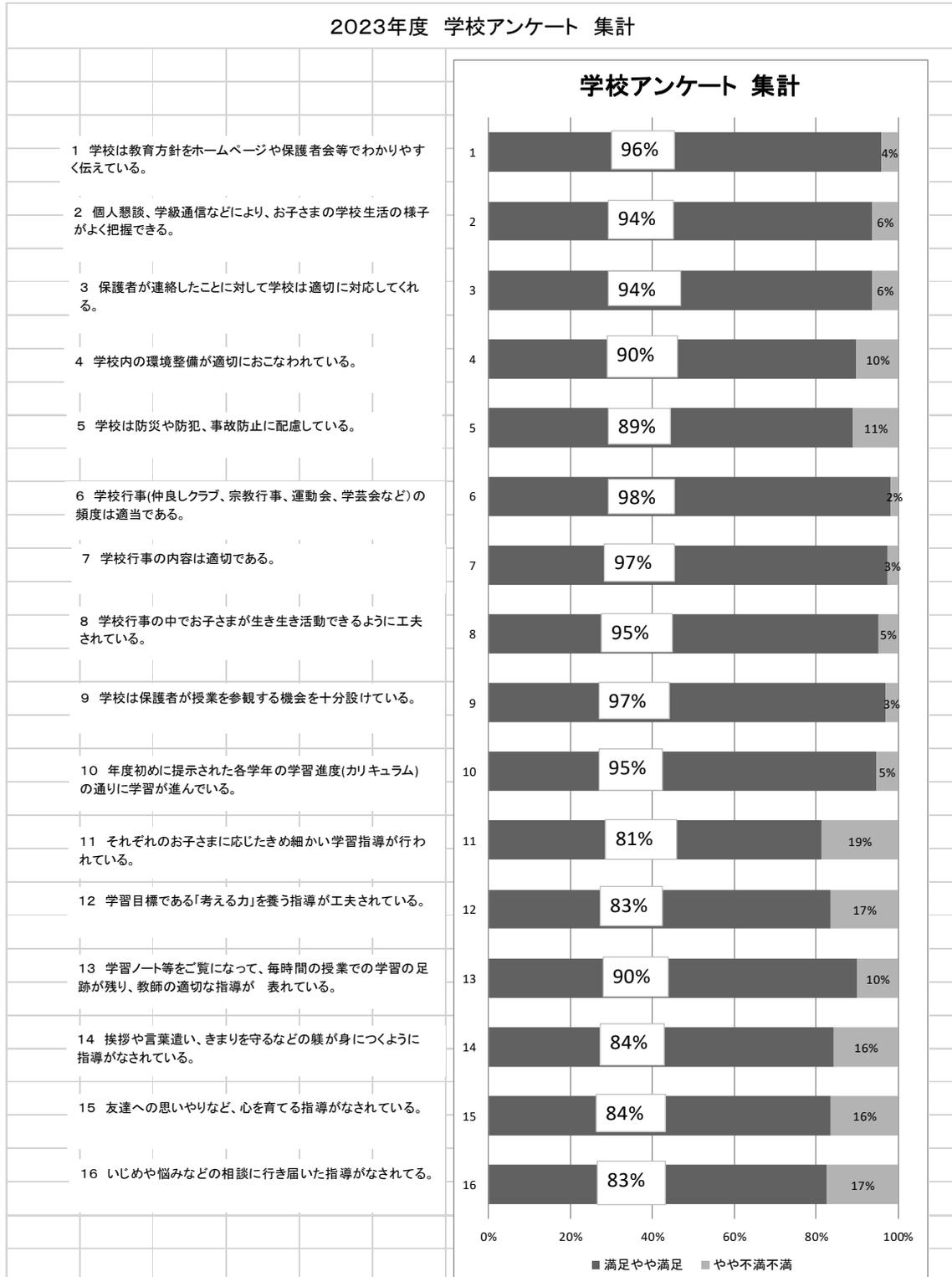
2. 学校評価について

毎年2月に、保護者に対して無記名で学校評価アンケートを実施している。225名の保護者から回答をいただいた。(回収率85%) (資料1)

今年度は、すべての行事や授業参観を4年前と同じように実施することができ、全体的に高い評価をいただいた。学習指導については、「きめ細かい学習指導」や『考える力』を養う指導については、少し評価を下げた。子どもたち一人一人に学習する習慣や学力向上に

つながるような教員研修を充実させたい。「友だちへの思いやり」や「いじめや悩みなどの相談」について、宗教教育が基礎にある本校にとって最も大切な部分なので、さらに教員全体で取り組んでいきたい。

(資料1) 2023年度 学校アンケート



次に、教員による自己評価についてである。2024年度初めに昨年度の学習指導・生活指導、校務分掌、担任業務について、教員による個人アンケート形式で自己評価を行い、その結果を集計した。結果については、職員会議で教員に周知を図った。2023年度は、Aの学習指導では、「学習内容について」の自己評価が低くなっており、2024年度に向けて学習を定着させる指導を進めていきたい。Bの校務分掌については、学年・他の分掌との連携など、自己評価が低くなっているため、2024年度は改善していきたい。

(資料2) 2023年度 学校評価

I 評価項目と評価の方法

(1) 評価項目の設定

「学習指導・生活指導」、「校務分掌」、「担任業務」の3分野を学校運営における中核分野ととらえ、それぞれについて評価項目を設定した。

(2) 評価の方法

評価は5段階で行い、達成度の最も高い評価を5、最も低い評価を1とする方法で自己評価を行い、項目ごとにその平均値を求めた。

II 評価結果

	評価項目	評価
A	学習指導・生活指導	
	総合的に年度当初の目標が達成されているか。	3. 6
	個々の児童の学力に応じた適切な学習目標を設定し、適切な指導をしているか。	3. 6
	教材研究を常に行い、よりよい授業ができるよう工夫しているか。	3. 7
	設定した学習進度（カリキュラム）が保たれているか。	3. 4
	個々の児童の学習内容が定着しているか。	3. 8
	目標とした学習内容が定着しているか。	3. 4
	同一教科の前後する学年における学習内容について、担当者との連携が取れているか。	3. 7
	基本的なしつけやルールの指導に努めているか。	3. 6
	豊かな人間関係作りに向けた指導に心掛けているか。	3. 6
	授業研究など校内外の研修に向上心を持って取り組んでいるか。	3. 4
B	校務分掌	
	分掌した校務を主体的に、的確に遂行しているか。	3. 6
	関係者・学年・他の分掌との連絡、連携が円滑に行われているか。	3. 3
C	担任業務	

保護者との連絡を密にし、児童の実態把握に努め、 信頼関係を築いているか。	3. 6
学級経営方針を明確にし、きめ細やかな指導を行っているか。	3. 6
専科教員との連携が取れているか。	3. 6

3. 教育について

① 特色ある教育

(ア) 宗教教育

全校生毎週1時間の宗教の時間や、週1回(金)の礼拝朝礼、毎日の朝礼・終礼などお祈りをする習慣を大切に指導した。全校朝礼では、教師が毎週交代で、その日の祈りと主の祈りを児童と一緒に唱えた。その他にも「マリア様をたたえる会」・「創立記念ミサ」・「クリスマス会」・「感謝のミサ」などの宗教行事を通して宗教教育を行った。

(イ) 外国語(英語)教育

2023年度は、全校生週に3時間、うち2時間は教員3人体制で英語の授業を行った。ネイティブ教員と英語専科が主となり授業を展開、担任は児童一人一人に寄り添って支援を行った。正しく発音できているのか、正しい綴りで書けているのか、児童の理解度を図るためのチェック体制を充実させている。

(ウ) 福祉教育

毎年5年生が訪問している老人ホーム(大池サンホーム)の訪問は、新型コロナウイルス感染症の影響で中止にした。

(エ) 「仲良しクラブ」活動

異学年集団でのボランティア活動や自然体験、制作活動を通し、情操豊かな子どもを育成し、高学年にはリーダーとしての自覚を身につけさせることを目的とし、年間19時間実施した。

・1年生歓迎会	1時間
・春の遠足	6時間
・小運動会	4時間
・読書まつり	2時間
・野外活動(市ヶ原、学校)	6時間
・校外清掃	2時間
・百人一首	2時間
・6年生とのお別れ会	1時間

② その他の取り組み

(ア) 4月に、保護者の方に学校のことをさらによく理解していただくために学級保護者会を1年生は大学の教室で、他学年はオンラインで行った。7月には学級保護者会を各教室で行った。授業参観は6月に学年を2つに分けて行った。9月には3日間に分けて、学年を分散して行った。12月には対面で学年保護者会を行い、2月には1～3年生は対面で学級保護者会、4年生は誕生学の授業に続いて学年保護者会、5年生は中高の野手教頭先生から海星中学校・高等学校の生活についての説明を聞き、学年保護者会を行った。

(イ) 学級間や、低学年・中学年・高学年の教員間の情報交換を活発にするため、月に1回火曜日の放課後に教員の学年部会を行い、職員会議でそれぞれの部会で話し合われたことを報告し共有した。また、新たに部会（宗教・生活・研究）と国算部会の集まりを月1回持った。

(ウ) 学年ごとの宿泊を伴う行事

学年	合宿など	場所	体験内容	2023年度
2	学校合宿	小学校校舎	家族を離れての共同生活 王子動物園、体育館でゲーム	1泊2日
3	校外活動	神戸市立自然の家（六甲）	カヌー、アーチェリー、ネイチャーハイクなど、自然の中での活動	1泊2日
4	校外活動	国立淡路青少年交流の家	砂の造形、藍染め、ストーンペインティング など	2泊3日
5	スキー合宿	鉢伏高原	スキー技術の向上 冬の自然体験・仲間づくり	3泊4日
6	修学旅行	沖縄方面	伊江島での民泊体験、平和祈念公園、平和祈念資料館、ひめゆり祈念資料館	3泊4日

(4) 神戸海星女子学院マリア幼稚園

1. 園児募集

- ① 2023年度園児数 278名（5月1日時点）
 - ・満3歳児1名、3歳児92名、4歳児89名、5歳児96名、合計278名
 - ・満3歳児41名入園（3学期末時点）

- ② 2023年度新入園児選考結果（2022年9月実施）
 - ・3歳児入園
70名応募中62名の合格者（合格者内訳：つくし・弟妹30名、外部32名）
 - ・満3歳児入園
53名応募中40名の合格者（合格者内訳：弟妹21名、外部19名）
 - ・つくし組（週2日1年間通う2歳児クラス）
28名応募中26名の合格者（内訳：弟妹卒園生9名、外部：17名）

- ③ 選考方法
 - ・年少少児…親子面接（志望動機、問答、手遊び等）の実施
 - ・満3歳児…親子面接（志望動機、問答、手遊び等）の実施
ただし、弟妹はリトミック体験の実施
 - ・つくし組…保育体験を実施

- ④ 広報
 - ・「ようちえんであそぼう」のリトミック体験や園見学を実施した。
 - ・入園説明会を通して園紹介を実施した。
 - ・園紹介では、本園の保育の軸である「キリスト教を基にした保育」、「モンテッソーリ保育」についてプレゼンテーションした。

2. 幼稚園を取り巻く現状を踏まえた重点課題

① 少子化に伴う園児確保

昨今の少子化については言うまでもない。しかも、その影響を受けるトップバッターが幼稚園であると言える。さらに、働く保護者の増加に伴い、幼稚園より保育所、認定子ども園が選ばれる傾向にあることもこれからの園児獲得の困難さに拍車をかけている現状である。

そうした状況にあって、2023年度の園児募集についてはより広報に力を入れた。その中心は未就園児を含む保護者が直接幼稚園に来て幼稚園で過ごす「ようちえんであそぼう」である。兵庫県私立幼稚園連盟の規定により、園児募集広報については9月以降とな

っているため、9月以前の「ようちえんであそぼう」等の取り組みはあくまで子育て支援の一環として実施している。とは言え、保護者の立場から言えば、必然的に幼稚園選びの一つとして参加していると予想されるため、「ようちえんであそぼう」の取り組みについてはリトミック、手遊び、制作、読み聞かせ、園庭での遊びなど、趣向をこらして実施した。

また、今後の少子化の更なる進行を踏まえ、就園前児クラスをつくし組、さらには満3歳児クラスの募集形態やクラス編成についての検討を行った。継続して検討する。

② 魅力ある幼稚園教諭の確保

2023年度も数名の退職者がいたため教員公募を行った。その方法は幼稚園独自の募集、さらには保育士・幼稚園教諭の人材派遣会社を利用した採用活動も行い、教員確保を行った。本来はどういった状況においても、特にクラス担任等の常勤教員の採用については園独自の採用試験を実施し、マリア幼稚園にふさわしい人材を確保することが重要と考えているが、退職申し入れの時期などが遅かったこともあり、2023年度は採用方法が後手になったことは否めない。今後は、教員面談等の時期を早め、人材が豊富な時期に園独自の採用試験が実施できるようにしたい。

また、採用したい人物像は幼稚園教諭としての高いスキルと正しい人権感覚を持った人材であることはもちろん、昨今の配慮を要する園児の増加に対応するためにも特別支援教育の知見と経験を持つこと、そして何よりもモンテッソーリ教育に関心があることが必要であると感じている。

3. 教育・保育活動の充実

① キリスト教の教えを基にした保育

2023年度もA組を対象に「神様のお話」の時間（45分×10回）を実施した。12月に実施する聖劇を集大成に、天地創造からイエスの誕生、イエスの生涯をたどりながら、幼児なりに真理や愛について考える時間をもった。また、日常の保育や園行事においてもお祈りすることを大事にし、「神様はいつもわたしたちのそばにいる」ことを感じる機会をつくった。聖劇は8クラスがクラスごとに創意工夫し取り組んだ。聖劇当日までの約1カ月の過ごし方を大切に、マリア幼稚園皆でイエスの誕生をお祝いすることができた。

2月末に実施する「感謝の集い」では、自身の名前の由来を家族の方から聴くことで愛されている自分に気づき、神様や家族への感謝の気持ちを持つことができた。

また、夙川教会とのつながりを大切に、「七五三」での祝別や父母会での神父様のお話など、よき交流ができた。

② モンテッソーリ教育

各クラス担任には必ずモンテッソーリディプロマ取得者がおり、教室での教具の提供やモンテッソーリ教育の精神に沿った保育実践を行った。モンテッソーリ教具について

は各教室によって劣化が異なるため、それぞれの実態に合わせ購入を進めた。

モンテッソーリ教育の「子どもは自ら育つ力を備えている」といった考えを基に、マリア幼稚園では、子ども自身その日、その時何をするか、何がしたいかを選び取り、その取り組む姿勢に寄り添った保育実践を行っている。今、学校教育で声高に叫ばれている「主体的・対話的で深い学び」に通じた実践がなされていると感じている。

③ 2023年度予定行事

- ・予定していた行事を全て実施した。

(実施した主な行事)

〈1学期〉入園の日・親子遠足(新西宮ヨットハーバー)・キャンプA組(園宿泊・キッズプラザ)・スポーツデイ・懇談会

〈2学期〉園外保育(阪急電車車庫・昆虫館・伊丹スカイパーク・王子動物園)・懇談会・七五三・聖劇(全8クラス)・お餅つき

〈3学期〉園外保育(尼崎の森・みやっこキッズパーク・神戸青少年科学館)・懇談会・感謝の集い・卒園の日

- ・A組キャンプについては、4年ぶりに1泊2日の宿泊行事として取り組んだ。
- ・3学期の卒園式は、コロナ禍ではホールに入る保護者を1名に制限していたが、2023年度は2名とし、両親で子どもの卒園を見守ることができた。ただ、ホールの環境を鑑み、2部制で行った。

④ 教員研修

- ・子どもの発達や保育、モンテッソーリ保育についての研修に参加し、各自研鑽に努めた。

(参加した主な研修会)

- ・関西学院大学「セルフアドボカシースキル獲得にむけて」
- ・深草子どもの家「ディプロマ取得研修」
- ・深草子どもの家「モンテッソーリ教育講習会」
- ・他園見学「聖パウロ子ども園」
- ・大阪教育大学「学校危機管理の基礎と実践」
- ・夙川教会「神父様のお話」全教職員参加
- ・西宮市医師会「君らしく成長しよう～子どもの発達とかかわりについて～」
- ・子育て支援センター専門研修「探究する心～保育・教育を考える」
- ・西宮市私立幼稚園研修会「学びの支えと保育アセスメント」全教員参加
- ・その他、園内研修として、テーマを設定した「対話の会」、「読書会」を実施した。

4. 施設整備

(1) 園庭の創造

① 芝生管理

「県民まちなみ緑化事業」により園庭を芝生化し、3年が過ぎた。年々、冬芝、夏芝ともに良好に育っている。保護者や来園者が来られる時期にも美しく緑の芝になっている。見た目も美しいが、子どもの安全管理にも非常に役立っている。

② 植栽と遊具

園庭プロジェクトを立ち上げ、特に北側の緑の小屋、藤棚辺りの環境づくりの検討を始めた。夏の暑い時期に備え、日陰場所を新設できればと考えている。継続検討する。

③ その他、安全な保育環境を意識し、施設整備については常に検討していく。

(5) 施設等の状況

① 現有施設設備の所在地等の説明

主な施設設備の状況は次のとおりである。

所在地	施設等	面積等
神戸市灘区青谷町	大学本館	6,559 m ²
	大学図書館	4,047 m ²
	中高校舎、講堂	10,627 m ²
	中高食堂ロッカー棟	659 m ²
	体育館	1,675 m ²
	小学校北館	2,149 m ²
	小学校南館	3,316 m ²
西宮市木津山町	幼稚園園舎	1,725 m ²

② 主な施設設備の取得又は処分計画及びその進捗状況

2023年度は小学校北館の耐震補強及び内部改修工事を実施し、完了した。